

## 滋賀県内企業動向調査 ～2021年7-9月期の実績見込みと10-12月期の見通し～ 製造業の景況感は、2四半期連続で大幅回復

(株)滋賀銀行のシンクタンクである (株)しがぎん経済文化センター（大津市、取締役社長 北川 正義）では、県内企業の景況感を調査するために「滋賀県内企業動向調査」を四半期ごとに実施しています。このほど2021年7-9月期分の調査結果をまとめましたので、公表いたします。

### 【調査の概要】

- ・調査名：滋賀県内企業動向調査（2021年7-9月期）
- ・調査時期：2021年8月3日～24日
- ・調査方法：郵送またはFAXによる配布、回収
- ・調査対象先：滋賀県内に本社を置く企業および県外からの進出企業 895社
- ・回答数：313社（有効回答率35%）うち製造業144社、非製造業169社
- ・分析手法：DI（ディフュージョン・インデックス）  
＝「かなり良い」と「やや良い」の回答割合から、  
「かなり悪い」と「やや悪い」の回答割合を引いた指数を採用

### 【調査結果の要旨】

#### 1. 現在の業況判断（P2～5）

- ・今回調査（21年7-9月期）での自社の業況判断DIは-12で、前回（21年4-6月期）の-24より12ポイント上昇した。引き続きマイナス水準にあるものの、景況感は大幅に改善した。
- ・製造業は、前回の-23から17ポイント上昇の-6で、2四半期連続で大幅に回復した。電気機械（0→+27）は、もちあいからプラス水準となり、一般機械（-18→+15）、金属製品（-20→+5）はマイナス水準からプラス水準に回復。一方、その他の製造業（0→-8）は、もちあいからマイナス水準に転じた。
- ・非製造業は、前回の-25から8ポイント上昇の-17で、5四半期連続の回復となっているが、水準は依然低い。不動産（+23→+36）はプラス幅が拡大、運輸・通信（-50→+8）はマイナス水準からプラス水準に回復、その他の非製造業（-25→0）はマイナス水準からもちあいとなった。一方、サービス（-26→-30）、建設（-6→-14）はマイナス幅が拡大した。
- ・3カ月後（10-12月期）は、製造業が4ポイント低下の-10、非製造業が8ポイント低下の-25、全体では6ポイント低下の-18と、新型コロナウイルス感染症第5波の影響もあり、再びマイナス幅は拡大する見通し。

#### 2. その他の判断項目（P6～9）

- ・売上DI（+1→+12）は前回から11ポイント上昇し、2四半期連続でプラス水準。
- ・経常利益DI（-3→+7）は前回から10ポイント上昇し、18年4-6月期（+4）以来のプラス水準。
- ・製・商品の在庫DI（+1→-2）は3ポイント低下。
- ・販売価格DI（-1→+9）は10ポイント上昇し、約2年ぶりのプラス水準。
- ・仕入価格DI（+30→+46）は16ポイント上昇、08年7-9月期（+64）以来の高水準。
- ・生産・営業用設備DI（+2→0）は2ポイント低下し、約2年ぶりに過剰感が解消。
- ・雇用人員DI（-14→-18）は4ポイント低下し、4四半期連続のマイナス水準となり、全体的に「不足感」が増している。

#### 3. 設備投資の実施状況（P10・11）

- ・設備投資を「実施」した（する）割合は、前回は3ポイント上回り49%となった
- ・主な投資内容（複数回答）は、「生産・営業用設備の更新」が最も多くなった（41%）。業種別にみると、製造業では引き続き「生産・営業用設備の更新」（56%）、非製造業では「OA機器の購入」（34%）が最も多い。

【お問い合わせ先】 (株)しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部 高橋（TEL：077-526-0005）



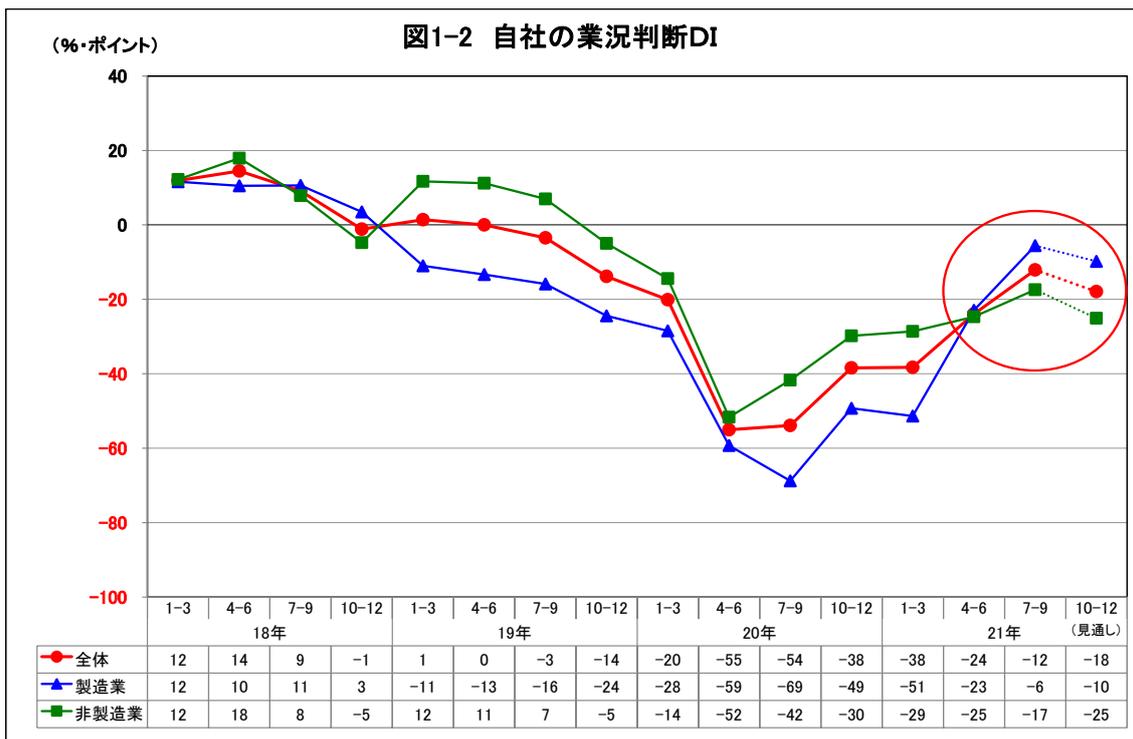


表1-1 自社の業況判断DI(業種別)

業種(※1)	今回の回答社数	21年 4-6月期 前回	21年 7-9月期 今回(※2)	21年 10-12月期 見通し
<b>全体</b>	<b>309</b>	<b>-24</b>	<b>-12 ( -27 )</b>	<b>-18</b>
<b>製造業</b>	<b>143</b>	<b>-23</b>	<b>-6 ( -17 )</b>	<b>-10</b>
繊維	13	-62	-54 ( -69 )	-46
木材・木製品	7	-33	-14 ( -17 )	-43
紙・パルプ	×	×	×	×
化学	10	-14	-10 ( -14 )	-11
石油・石炭	×	×	×	×
窯業・土石	×	×	×	×
鉄鋼	×	×	×	×
非鉄金属	×	×	×	×
食料品	10	-85	-60 ( -75 )	-40
金属製品	20	-20	5 ( -7 )	-15
一般機械	13	-18	15 ( -45 )	15
電気機械	11	0	27 ( 0 )	9
輸送用機械	×	×	×	×
精密機械	×	×	×	×
その他の製造業	38	0	-8 ( 7 )	-5
<b>非製造業</b>	<b>166</b>	<b>-25</b>	<b>-17 ( -34 )</b>	<b>-25</b>
建設	43	-6	-14 ( -33 )	-30
不動産	11	23	36 ( 15 )	36
卸売	30	-44	-40 ( -60 )	-41
小売	20	-57	-25 ( -48 )	-20
運輸・通信	12	-50	8 ( -50 )	-8
電気・ガス	×	×	×	×
サービス	33	-26	-30 ( -22 )	-31
リース	×	×	×	×
その他の非製造業	12	-25	0 ( -17 )	-25

(※1) 回答数が5社以下の業種は非表示(×)

(※2) ( )内の数値は前回調査時点での7-9月期の見通し

(2) 前年同期を100とした売上高…非製造業の売上は前年をやや下回る(表1-2)

前年同期を100とした売上高を業種別にみると、21年4-6月期(確定分)は製造業で110.3、非製造業は99.2、全体では104.6となった。7-9月期の見込は、製造業が104.7で5.6ポイント低下、非製造業が94.3で4.9ポイント低下、全体では99.3で5.3ポイント低下する見通しである。

表1-2 前年同期を100とした売上高(業種別)

業種	今回の回答社数	21年1-3月期 前回	21年4-6月期(確定分) 今回(※)	21年7-9月期 見込
<b>全体</b>	<b>313</b>	<b>104.3</b>	<b>104.6</b> ( 99.5 )	<b>99.3</b>
<b>製造業</b>	<b>144</b>	<b>104.6</b>	<b>110.3</b> ( 102.9 )	<b>104.7</b>
繊維	13	89.3	99.0 ( 92.2 )	92.4
木材・木製品	7	92.2	99.3 ( 87.5 )	98.5
紙・パルプ	×	×	×	×
化学	10	105.9	115.9 ( 114.4 )	107.6
石油・石炭	×	×	×	×
窯業・土石	×	×	×	×
鉄鋼	×	×	×	×
非鉄金属	×	×	×	×
食料品	10	92.0	106.0 ( 108.7 )	94.8
金属製品	20	100.2	114.7 ( 105.2 )	105.1
一般機械	13	98.8	102.5 ( 95.2 )	98.3
電気機械	11	104.1	123.6 ( 111.8 )	131.8
輸送用機械	×	×	×	×
精密機械	×	×	×	×
その他の製造業	38	97.3	105.1 ( 101.8 )	103.3
<b>非製造業</b>	<b>169</b>	<b>104.0</b>	<b>99.2</b> ( 96.5 )	<b>94.3</b>
建設	44	108.0	88.3 ( 88.3 )	86.7
不動産	11	113.1	105.7 ( 101.1 )	94.4
卸売	30	96.6	97.1 ( 92.1 )	94.9
小売	21	98.0	103.2 ( 102.8 )	96.7
運輸・通信	12	84.1	94.6 ( 95.9 )	95.3
電気・ガス	×	×	×	×
サービス	33	104.4	108.7 ( 103.2 )	98.2
リース	×	×	×	×
その他の非製造業	13	119.5	107.1 ( 107.7 )	103.0

(※1) 回答数が5社以下の業種は非表示(×)

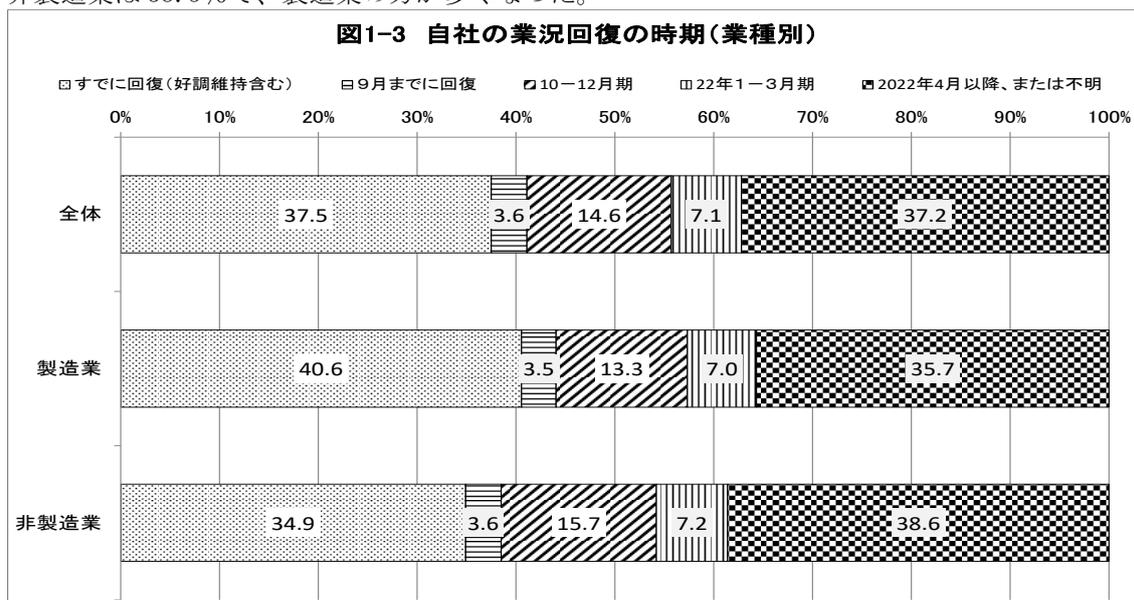
(※2) ( )内の数値は前回調査時点での4-6月期の見通し

(3) 業況回復の時期…「9月までに回復」(すでに回復を含む)は製造業の4割強(図1-3)

自社の業況回復の時期をみると、「すでに回復(好調維持を含む)」した企業の割合は37.5%で、「9月までに回復」(3.6%)を合わせると41.1%となり、前回(38.5%)より2.6ポイント増加した。一方、半年以上先の「2022年4月以降、または不明」は37.2%で、前回(39.9%)より2.7ポイント減少した。

業種別では、「9月までに回復」(すでに回復を含む)した企業の割合は、製造業が44.1%、非製造業は38.5%で、製造業の方が多くなった。

図1-3 自社の業況回復の時期(業種別)



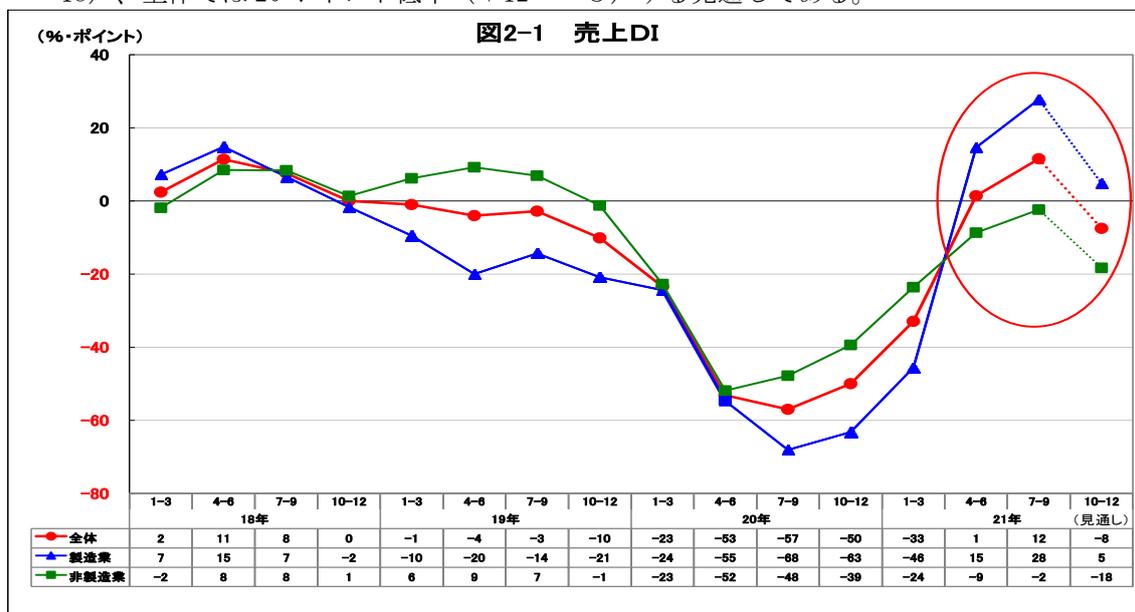
## 2. その他の判断項目

### (1) 売上DI…11ポイント上昇し、2四半期連続でプラス水準(図2-1)

現在の売上DI(「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値)は+12で、前回の+1から11ポイント上昇し、2四半期連続でプラス水準となった。

業種別では、製造業(+15→+28)は13ポイント上昇、非製造業(-9→-2)は7ポイント上昇した。

3カ月後は、製造業は23ポイント低下(+28→+5)、非製造業は16ポイント低下(-2→-18)、全体では20ポイント低下(+12→-8)する見通しである。

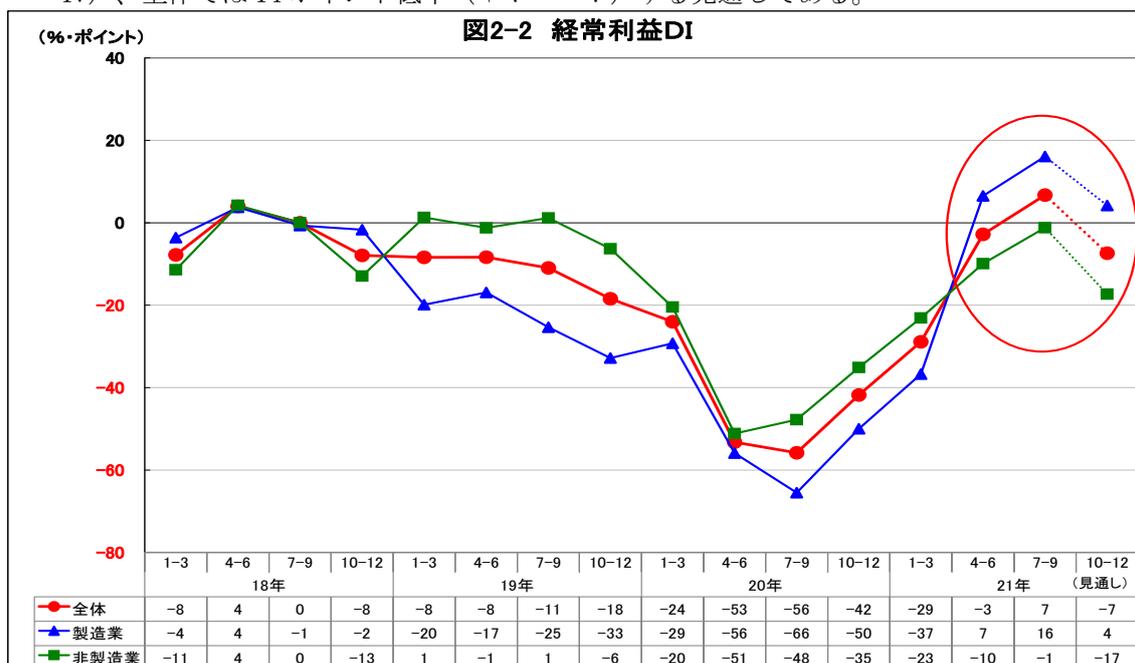


### (2) 経常利益DI…10ポイント上昇し、3年3か月ぶりにプラス水準(図2-2)

現在の経常利益DI(「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値)は+7で、前回(-3)から10ポイント上昇し、18年4-6月期(+4)以来、3年3か月ぶりにプラス水準となった。

業種別にみると、製造業(+7→+16)は9ポイント上昇、非製造業(-10→-1)は9ポイント上昇した。

3カ月後は、製造業は12ポイント低下(+16→+4)、非製造業は16ポイント低下(-1→-17)、全体では14ポイント低下(+7→-7)する見通しである。

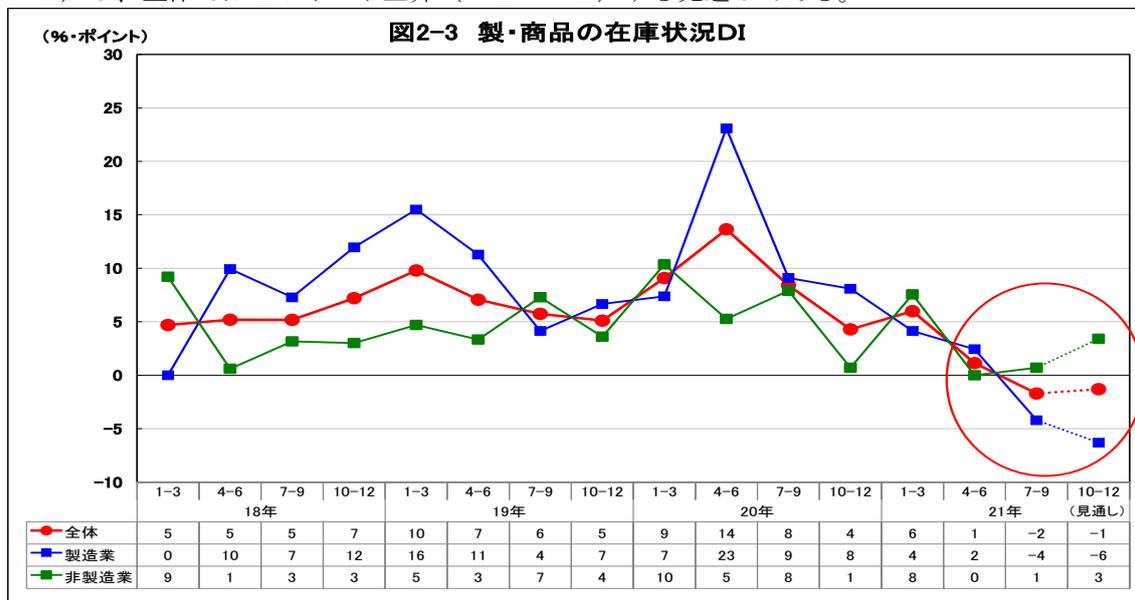


**(3) 製・商品の在庫状況DI…3ポイント低下し、不足に転じた(図2-3)**

現在の製・商品の在庫状況DI（「過大」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値）は-2で、前回（+1）から3ポイント低下し、不足に転じた。

業種別にみると、製造業（+2→-4）は6ポイント低下した。化学（+14→-40）などで不足感が強まり、木材・木製品（0→+29）などで過大感が強まった。非製造業（0→+1）は1ポイント上昇した。不動産（-17→-36）などで不足感が強まり、卸売（+4→+20）などの過剰感は強まった。

3カ月後は、製造業は2ポイント低下（-4→-6）、非製造業は2ポイント上昇（+1→+3）し、全体では1ポイント上昇（-2→-1）する見通しである。

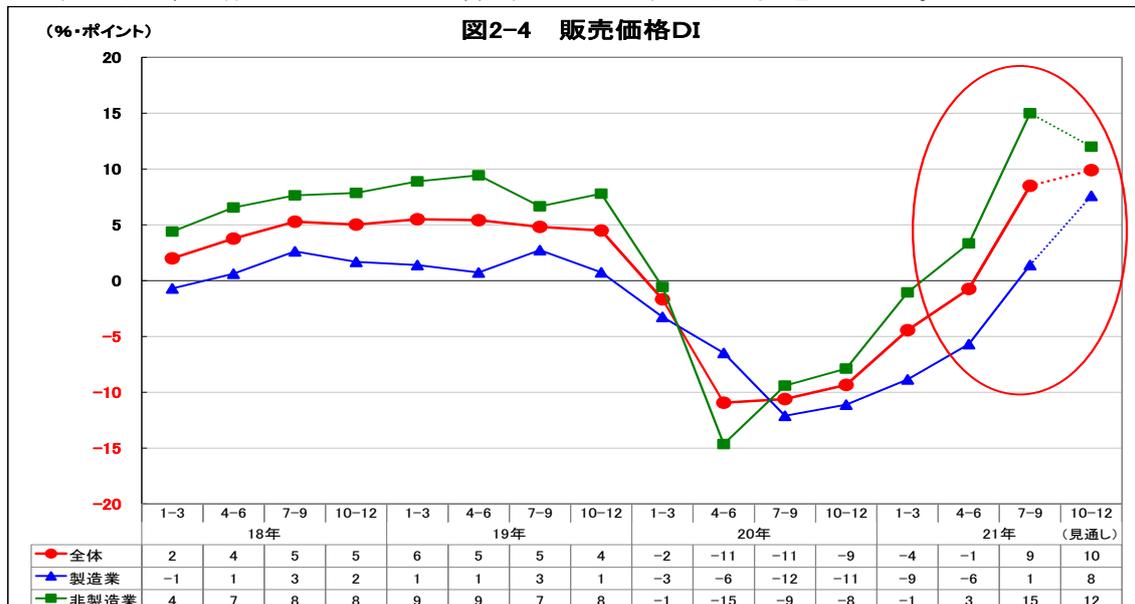


**(4) 販売価格DI…10ポイント上昇し、約2年ぶりのプラス水準(図2-4)**

現在の販売価格DI（「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値）は+9で、前回（-1）から10ポイント上昇し、19年10-12月期以来約2年ぶりのプラス水準となった。

業種別にみると、製造業（-6→+1）は7ポイント上昇した。金属製品（-20→+5）、木材・木製品（+17→+29）などは上昇、電気機械（-10→-18）などは低下した。非製造業（+3→+15）は12ポイント上昇した。小売（+4→+24）、サービス（0→+20）などは上昇、卸売（+24→+23）などは低下した。

3カ月後は、製造業は7ポイント上昇（+1→+8）、非製造業は3ポイント低下（+15→+12）となり、全体では1ポイント上昇（+9→+10）となる見通しである。

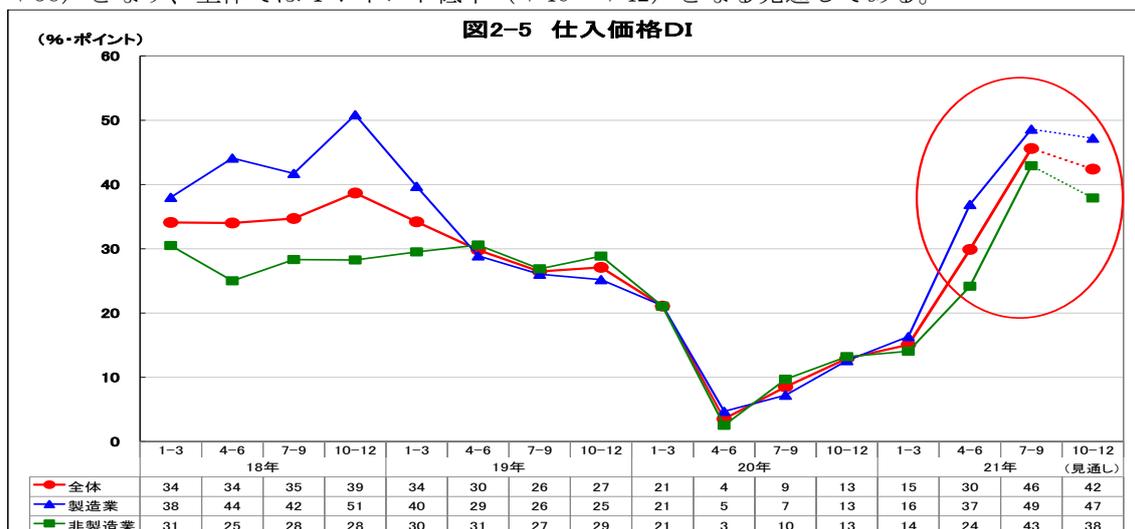


**(5) 仕入価格DI…16ポイント上昇し、13年ぶりの高水準(図2-5)**

現在の仕入価格DI（「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値）は+46で、前回（+30）から16ポイント上昇し、08年7-9月期（+64）以来、13年ぶりの高水準となった。

業種別にみると、製造業（+37→+49）は12ポイント上昇した。食料品（+8→+50）、電気機械（+20→+55）などで上昇、化学（+71→+40）、その他の製造業（+39→+34）などで低下した。非製造業（+24→+43）は19ポイント上昇した。サービス（-10→+21）、小売（+15→+43）など多くの業種で上昇、一方、運輸・通信（+57→+44）のみが低下した。

3カ月後は、製造業は2ポイント低下（+49→+47）、非製造業も5ポイント低下（+43→+38）となり、全体では4ポイント低下（+46→+42）となる見通しである。

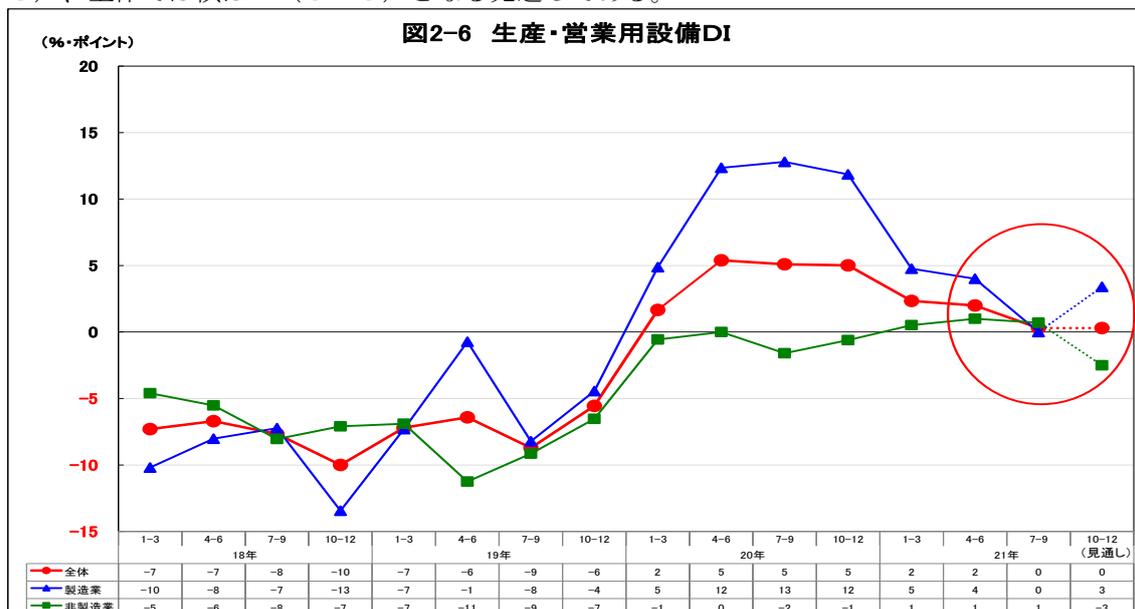


**(6) 生産・営業用設備DI…約2年ぶりに過剰感が解消(図2-6)**

現在の生産・営業用設備DI（「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値）は0で、前回（+2）から2ポイント低下し、約2年ぶりに過剰感が解消した。

業種別にみると、製造業（+4→0）は4ポイント低下した。電気機械（+10→+18）は過剰感が強まり、金属製品（+13→0）、一般機械（+9→0）は過剰感が解消され、その他の製造業（0→-8）で不足感が強まった。非製造業（+1→+1）は横ばい。卸売（+4→+7）、建設（0→+2）で過剰感が強まり、運輸・通信（+13→0）、その他非製造業（+10→0）で過剰感が解消、一方、サービス（+5→-3）は不足感が強まった。

3カ月後は、製造業は3ポイント上昇（0→+3）、非製造業は4ポイント低下（+1→-3）、全体では横ばい（0→0）となる見通しである。

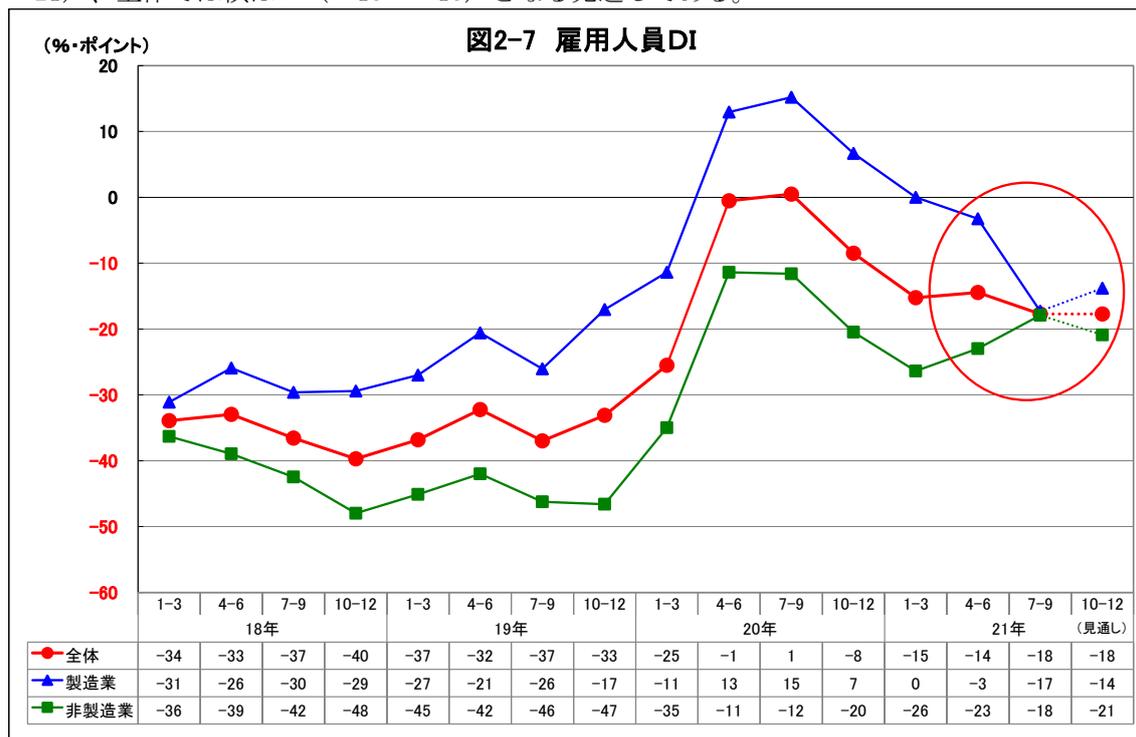


(7)雇用人員DI…4四半期連続のマイナス水準で、不足感が強まる(図2-7)

現在の雇用人員DI(「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値)は-18で、前回(-14)より4ポイント低下し、4四半期連続でマイナス水準となり、不足感が強まった。

業種別にみると、製造業(-3→-17)は14ポイント低下した。食料品(+38→+10)のみで過剰感が続き、木材・木製品(-17→0)で不足感が解消されたが、電気機械(-20→-46)、その他の製造業(-3→-24)など多くの業種で不足感が強まった。非製造業(-23→-18)は5ポイント上昇したが、依然として不足感が続いている。卸売(-12→+7)は過剰となったが、建設(-43→-50)、サービス(-4→-16)で不足感が強まった。不動産(-8→0)の不足感は解消した。

3カ月後は、製造業は3ポイント上昇(-17→-14)、非製造業は3ポイント低下(-18→-21)、全体では横ばい(-18→-18)となる見通しである。



### 3. 設備投資の実施状況

#### (1) 設備投資の実施割合…6四半期連続で50%を下回る(図3-1、表2)

今期(21年7-9月期)に設備投資を実施した(する)企業の割合は49%で、前回(21年4-6月期)46%から3ポイント上昇したものの、6四半期連続で50%を下回っている。

業種別にみると、製造業は52%で、前回(43%)から9ポイント上昇した。繊維(23%→62%)、食料品(38%→60%)など多くの業種で上昇したが、その他の製造業(39%→34%)は低下した。非製造業は47%で、前回(49%)から2ポイント低下した。運輸・通信(38%→58%)、小売(39%→52%)で上昇したが、サービス(64%→45%)、卸売(44%→35%)などで低下した。

3カ月後の設備投資実施予定の割合は、製造業が46%、非製造業が38%、全体では42%となり、7四半期連続で50%を下回る見通しである。

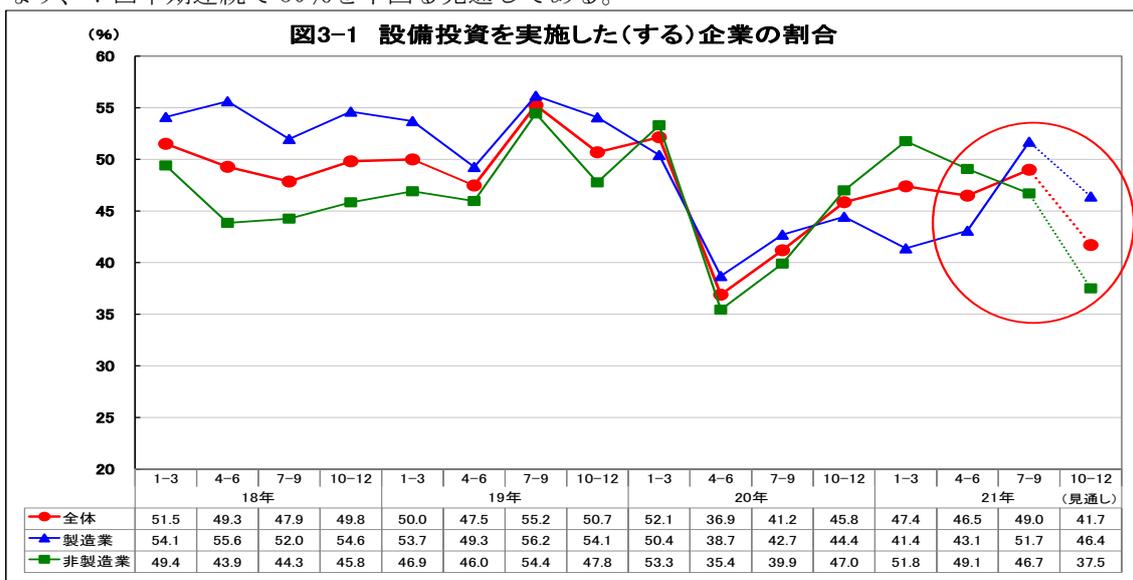


表2 設備投資を実施した(する)の企業の割合(業種別詳細) (%)

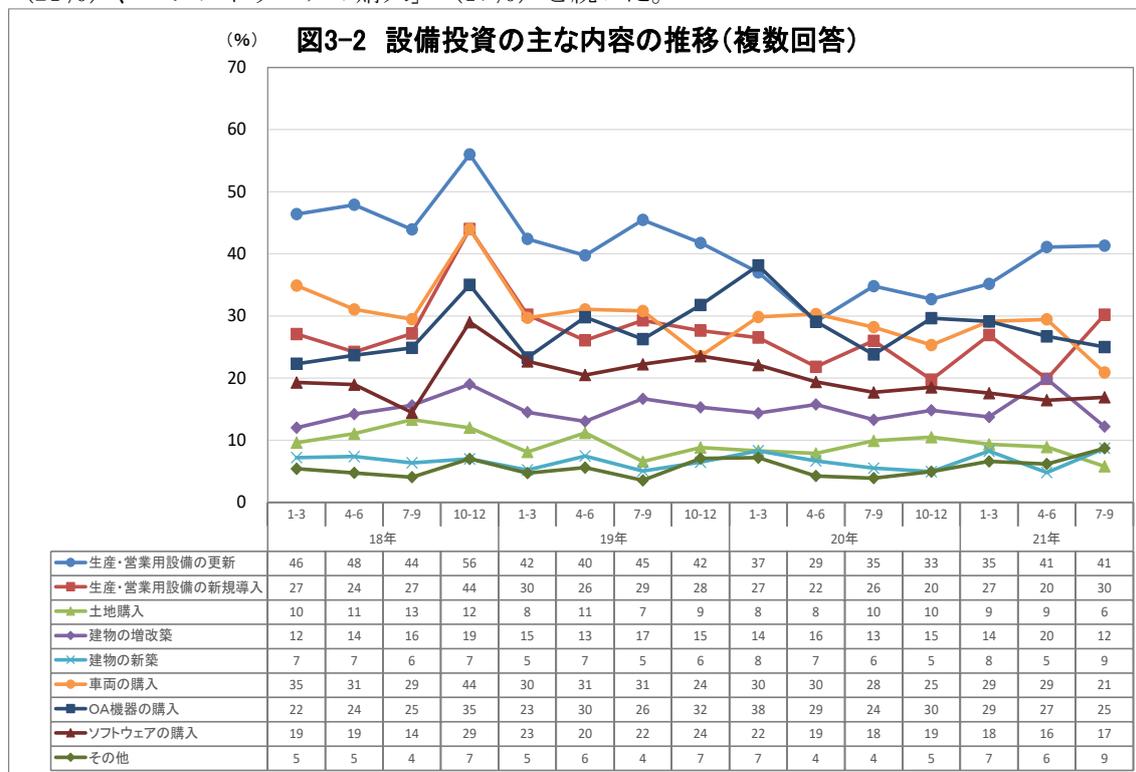
業種(※)	21年 4-6月期 前回	21年 7-9月期 今回	21年 10-12月期 見通し
<b>全体</b>	<b>46</b>	<b>49</b>	<b>42</b>
<b>製造業</b>	<b>43</b>	<b>52</b>	<b>46</b>
繊維	23	62	46
木材・木製品	0	0	0
紙・パルプ	×	×	×
化学	71	80	40
石油・石炭	×	×	×
窯業・土石	×	×	×
鉄鋼	×	×	×
非鉄金属	×	×	×
食料品	38	60	20
金属製品	47	55	45
一般機械	36	46	54
電気機械	60	64	36
輸送用機械	×	×	×
精密機械	×	×	×
その他の製造業	39	34	58
<b>非製造業</b>	<b>49</b>	<b>47</b>	<b>38</b>
建設	59	55	30
不動産	38	36	22
卸売	44	35	26
小売	39	52	48
運輸・通信	38	58	50
電気・ガス	×	×	×
サービス	64	45	43
リース	×	×	×
その他の非製造業	33	25	58

(※) 回答数が5社以下の業種は非表示

(2) 設備投資の主な内容…「生産・営業用設備の新規導入」が2年半ぶりに3割

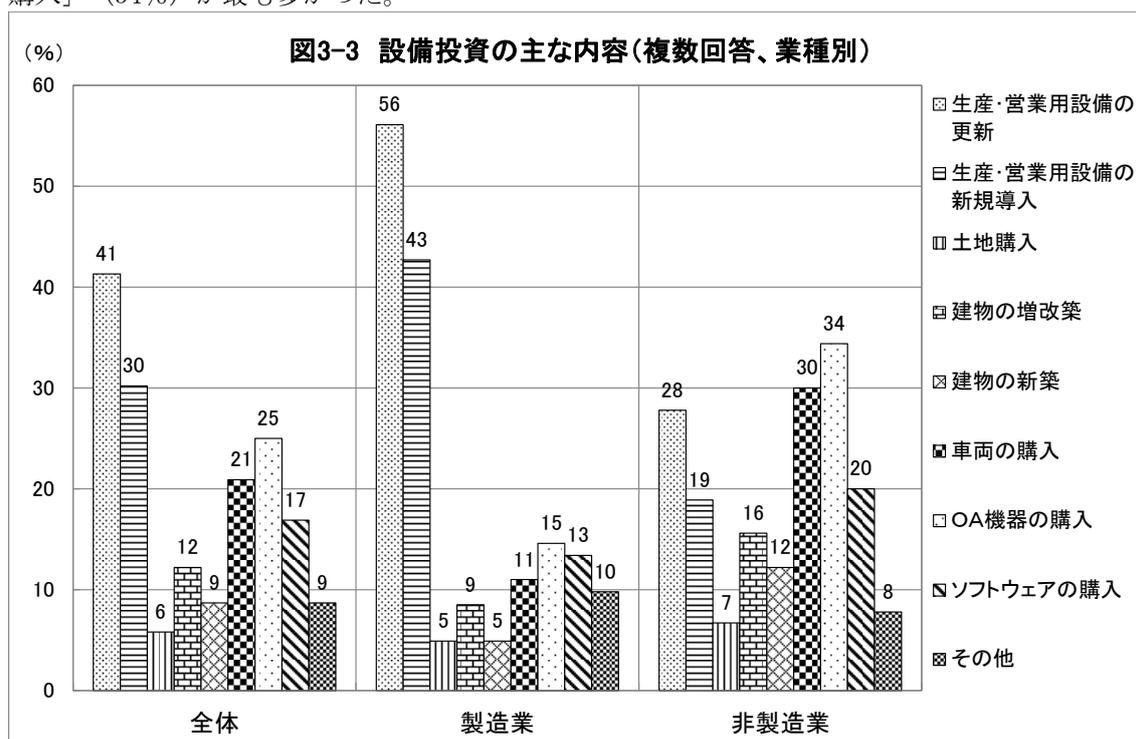
①全体の動向 (図3-2)

設備投資を実施した(する)企業のうち、設備投資の主な内容を見ると(複数回答)、「生産・営業用設備の更新」(41%)が最も多くなり、次いで「生産・営業用設備の新規導入」(30%)が2年半ぶりに3割に達した。「OA機器の購入」(25%)、「車両の購入」(21%)、「ソフトウェアの購入」(17%)と続いた。



②業種別の動向 (図3-3)

業種別にみると、製造業は「生産・営業用設備の更新」(56%)、非製造業は「OA機器の購入」(34%)が最も多かった。



【参考資料】

1. 現在の業況判断の根拠となる具体的な理由や背景（一部抜粋）

【製造業】

「良い」（かなり良い+やや良い）

業種	事象
窯業・土石	自動車、電池関係を主に、コロナ禍前(2019年)の売上水準に戻っている。
金属製品	新型コロナ後の海外の注文の回復。 メイン取引先からの受注順調。
一般機械	前期(前年)は新型コロナの影響により売上が減少したが、現在は前期に比べ20%増加している。
電気機械	自動車産業回復の影響で売上が対前年同期比約300%に増加したが、3ヵ月後は前年度程度となる見込み。 電子部品受注好調。 中国向け設備に装着するセンサーの増産。
その他の製造業	大手OEMやPBの増加。 半導体需要が好調で、その関連事業の売上が25%程度増加した。 当社取引先から増産対応の依頼あり。半導体不足、原料不足による先行注文と思われる。 白物家電の好調で、梱包資材の売上がよい。 半導体、自動車が10%増。 需要回復により、売上が足元20%増。12月までの見込みでも好調推移継続。 電子部品関連、インバウンド関連の受注が回復し、売上が2%増加。 例年との比較では大きくは変わらない。新型コロナの影響を受けた前年同時期と比較すると良い。海外子会社向けの原材料輸出が回復している。

「悪い」（かなり悪い+やや悪い）

業種	事象
化学	新型コロナの影響が続いている、例年の売上の80%で推移。 受注増に伴い、雇用人員増等、固定費がアップした。 例年7-9月期は新型iPhoneの発売前の為、買い控えがおきている。 自動車業界の見通しが不透明。
食料品	7月は売上高2019年比98%と回復を見せたが、新型コロナ第5波の影響を8月以降受ける見通し。 新型コロナの影響で飲食店への売上が減少。
金属製品	新型コロナの影響で売上が減少し、未だに回復は途中である。 半導体供給不足による家電、自動車メーカーの生産調整。
電気機械	新型コロナの影響で売上が約5%減少した。
その他の製造	新型コロナによりユーザーの経営状態が悪い。一部補助金による受注が入っているが少額。 現在輸出している商品が、半導体不足の影響で激減している。今後も不足解消が不透明。 新型コロナ、ウッドショック等の影響でハウスメーカーや工務店からの受注が減っている。 依然部品の入荷が遅く、出荷が不芳。先行き見通し不明。 ドル相場及び気候の影響によって飼料費高騰している。 一年半以上続く新型コロナの影響で、得意先が営業を止められている(まん延等防止措置の指定)。 新型コロナ感染状況により、業況先行不透明。 新型コロナの影響で中国企業の売上が減少した。人材不足。

【非製造業】

「良い」（かなり良い+やや良い）

業種	事象
建設	先延ばしにされていたものが実行されている。 完工高が前期比30%増加。
不動産	住宅価格の上昇が大手から一般、中堅業者へ客の流れを作っていると思われる。 ウッドショックにより仕入価格は上昇したが、上期については建売在庫の販売が好調で1~6月期売上が前年比15%増加した。
卸売	新型コロナの影響でステイホームが推奨され、室内、ガーデニング用品が好調だった。
運輸・通信	運送部門の売上が20%増加した(ワイヤーハーネス定期便増加)。
サービス	取引先との契約数の増加。
その他の非製造業	人材派遣業を行っているが、得意先の状況が好調な為(エレクトロニクス関係)。

「悪い」（かなり悪い+やや悪い）

業種	事象
建設	売上高に関して本社は10%増加しているが、大分支店(九州案件)が新型コロナで20%減少。 客先の設備投資が低調の為、大型の受注工事がない。 土木は堅調に推移しているが、建設部門の民間受注が厳しい局面に入っている。 コロナ禍の中、取引先企業の設備投資が鈍っている。 ウッドショックで値上がりが大きく、契約に至らない。お客様都合で契約寸前で破談。 設備投資計画の延期により、受注高が減少。 国や県の公共工事減少。
卸売	主たる取引相手であるアメリカ企業が、新型コロナの影響から完全に回復していないため。 魚釣りは屋外でのレジャーであるが、新型コロナ対応で宣言が発出され、人の行動に対し小売店主が不安を感じている。 ウッドショック、コロナ禍の中で、売上げ伸びず、個人消費が減退。 新型コロナの影響が大きい(特に酒類)。一年余りを経過したが収束が見えない。 新型コロナの影響も加わり、呉服の売上が30%以上減少した。 新型コロナの状態によって大きく変動する。
小売	新型コロナの影響が続いている。 客数減が続いているが、新型コロナの影響で外出を控えている影響なのかは、つかめていない。 新型コロナの影響で、営業自粛の店舗がある。 インバウンド売上は全く見込めないため、売上が大幅にダウンしている。 原油価格の上昇により粗利低下。LPガスも仕入価格上昇により粗利悪化。 新型コロナの影響より、いつ回復できるかが心配。
運輸・通信	新型コロナの影響により第1四半期の収益が5%減少した。
サービス	新型コロナの影響で、売上が前々年と比べて25%減少した。 新型コロナによる移動制限で受注減少。 新型コロナの影響で利用客が減少。 新型コロナの影響で顧客が大幅減、売上は60%減。 大手の企業内食堂での食事提供業務。食堂利用者数がテレワークの推進により減少。 新型コロナの影響で観光が動いていない。 感染拡大による「まん延防止等重点措置」が発令された為に「今こそ滋賀」が販売停止になった。 エコカーが進んでいる中、コロナ禍で益々売上低下、販売価格も上昇。 新型コロナの影響を受け、業績の浮沈が激しい。
電気・ガス	ウッドショックの影響で建築の受注減。
その他の非製造業	新型コロナの影響が長引くと思われる。その施策に左右される。

2. DI回答一覧(業種別)

項目	業況判断DI				売上				仕入価格				販売価格			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	21年 4-6	21年 7-9	21年 7-9	21年 10-12												
調査時期	現在	見通し	現在	見通し												
現在/3カ月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し												
全体	-24	-27	-12	-18	1	-12	12	-8	30	32	46	42	-1	-1	9	10
製造業	-23	-17	-6	-10	15	9	28	5	37	41	49	47	-6	0	1	8
繊維	-62	-69	-54	-46	8	-8	23	-8	23	38	54	39	0	0	-8	0
木材・木製品	-33	-17	-14	-43	-33	-17	29	0	33	50	57	57	17	50	29	29
紙・パルプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
化学	-14	-14	-10	-11	43	57	60	0	71	71	40	40	0	0	10	20
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
鉄鋼	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
非鉄金属	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
食料品	-85	-75	-60	-40	23	17	20	-30	8	8	50	50	-8	0	0	-10
金属製品	-20	-7	5	-15	27	20	40	15	40	53	60	50	-20	-13	5	5
一般機械	-18	-45	15	15	-18	-27	15	0	64	45	62	54	9	0	0	0
電気機械	0	0	27	9	-10	0	18	0	20	30	55	55	-10	-20	-18	0
輸送用機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
精密機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の製造業	0	7	-8	-5	16	0	13	5	39	42	34	45	-10	-3	0	13
非製造業	-25	-34	-17	-25	-9	-28	-2	-18	24	25	43	38	3	-1	15	12
建設	-6	-33	-14	-30	-22	-59	-35	-51	33	33	54	47	-10	-17	2	7
不動産	23	15	36	36	31	8	18	-9	27	36	50	40	8	17	27	27
卸売	-44	-60	-40	-41	-24	-25	-4	-17	40	32	48	45	24	16	23	17
小売	-57	-48	-25	-20	-7	-30	14	15	15	30	43	33	4	-4	24	10
運輸・通信	-50	-50	8	-8	-13	-13	0	0	57	57	44	44	0	0	0	0
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	-26	-22	-30	-31	13	13	3	-12	-10	-10	21	21	0	-5	20	13
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	-25	-17	0	-25	-8	-25	54	8	0	-11	22	25	11	11	10	11

項目	経常利益				製・商品の在庫				生産・営業用設備				雇用人員			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	21年 4-6	21年 7-9	21年 7-9	21年 10-12												
調査時期	現在	見通し	現在	見通し												
現在/3カ月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し												
全体	-3	-13	7	-7	1	-2	-2	-1	2	2	0	0	-14	-14	-18	-18
製造業	-7	4	16	4	2	3	-4	-6	4	2	0	3	-3	-6	-17	-14
繊維	8	-15	8	8	0	8	8	8	15	15	15	15	15	15	0	8
木材・木製品	-17	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	-17	0	0	-14
紙・パルプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
化学	43	43	70	0	14	-14	-40	-20	-29	0	-10	0	-14	0	-20	0
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
鉄鋼	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
非鉄金属	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
食料品	-8	-8	-10	-10	38	33	0	-10	15	15	10	10	38	38	10	0
金属製品	27	13	50	20	0	7	5	0	13	7	0	0	-7	-13	-15	-10
一般機械	-18	-27	-15	-23	27	0	8	8	9	9	0	8	-9	-18	-8	-23
電気機械	0	10	27	18	-10	-10	-18	-18	10	20	18	18	-20	-20	-46	-36
輸送用機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
精密機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の製造業	6	3	3	-5	-16	0	-11	-13	0	-6	-8	3	-3	-10	-24	-13
非製造業	-10	-26	-1	-17	0	-6	1	3	1	2	1	-3	-23	-21	-18	-21
建設	-22	-45	-26	-40	2	-7	5	5	0	4	2	0	-43	-45	-50	-48
不動産	23	15	45	9	-17	-17	-36	-9	0	0	0	-18	-8	8	0	-9
卸売	-8	-36	-20	-33	4	-8	20	17	4	4	7	0	-12	-4	7	0
小売	-7	-26	14	5	4	4	0	5	-11	-11	-5	-5	-15	-22	-5	-10
運輸・通信	0	13	0	-8	0	0	0	-10	13	13	0	0	0	0	0	0
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	4	-9	9	-6	0	-5	-7	4	5	5	-3	0	-4	4	-16	-22
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	-33	-25	46	17	-13	-13	0	-11	10	10	0	-10	-33	-33	-25	-25

※ 回答数が5社以下の業種は非表示 (X と表示)